



# こちらら学校支援地域本部

「町民みなんでまえる学校 みんなで育てる伯耆町の子ども」

学校支援活動成果報告・交流会を2月19日、岸本公民館で開催し、保護者・地域住民・学校支援ボランティア・学校支援コーディネーター・教職員が参加しました。

報告会では、学校支援本部の取り組みと、昨年12月に実施した学校支援活動アンケート結果などについて報告。続く交流会では、学校別に分かれ、学校支援活動の成果と課題、その解決策を話し合いました。その結果、「学校へ

の関心が高まった」「子どもたちの体験が増え、学習効果が上がった」などの成果が出された一方、「学校が必要とする支援内容がわかりづらい」といった学校とボランティアの認識のズレなどが課題として上がりました。今後、学校支援地域本部では、今回出された意見を参考に、平成24年度の活動を展開していきますので、引き続きご協力お願いします。



意見交換をする参加者



出された数々の意見

【問い合わせ先】教育委員会事務局 総務学事室 ☎62-0927

## ALT通信

(第6回)

このコーナーは、外国語指導助手(ALT)によるエッセイを英語と日本語で紹介します。

*One day last year, I went to the blood donation centre and tried to give blood. I waited about 30 minutes, but in the end, I wasn't able to give blood. That was because I have lived in England. About 15 years ago, when I was a child, there was an outbreak of a disease called CJD. CJD occurs when you eat bad meat. In case I am a carrier of that disease, I cannot give blood.*

*However, blood is needed for a wide range of sick people, from car crash victims to cancer patients. The average adult human has about 5.5litres of blood. The average volume of blood needed in a transfusion is about 1.5litres, but a car crash victim can easily require 45litres. When you give blood, you can only give 400ml max. So for every car accident victim, 100 people have to donate blood. I hope that you will give blood too!*

pete

昨年のある日、私は献血センターに行って、献血をしようと思いました。30分ぐらい待ったのに、結局献血できませんでした。それは、私がイギリスで暮らしていたからでした。約15年前、私が子どもの頃、イギリスでクロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)という病気が発生しました。傷んだ肉を食べたら、CJDにかかります。もしかしたら私はその病気のキャリアーかもしれないので、献血してはいけません。

しかし、ガンの患者さんから交通事故の患者さんまで、血液は色々な人の為に必要です。平均的な大人は、5.5ℓの血液を保有しています。輸血なら、平均的に1.5ℓの血液が必要ですが、交通事故なら、ゆうに45ℓが必要です。献血では、400mlが最大限です。ですから、それぞれの交通事故の患者さんには100人は献血しないとけません。

あなたも献血にご協力ください!

ピーター



献血センター入口



遠心分離器